



バンクーバーの魅力

げで、食文化はとても豊かです。中華をはじめ多彩な料理が楽しめ、本国で食べるよりもバンクーバーの方が美味しいと喜ばれるほどです。実は、当地の寿司も大変うま、地元の若者を中心に圧倒的な人気です。多くの自然に囲まれ、ゆったりとした時間を持て

ること。そして医療や教育レベルも高く生活水準が高いので、いわゆる(Quality of Life)を満喫できることが、この都市の魅力といえます。特に、夏のバンクーバーは最高です。朝5時ごろには明るくなり、昼間は25度程度、湿度も低く爽快、そして夜9時にやっと日没です。素晴らしい大

自然の下、ゴルフ、ハイキング、釣り、バーベキューなど野外で楽しく過ごせます。

是非、夏場に当地を訪問し、バンクーバーを堪能してください。皆さまを大歓迎いたします。

小谷時数(1974年文学)

Charm



全ての大都会は、かつてバンクーバーのようであった——この街を語るとき、よく使われるフレーズです。都会化されても依然として豊かな自然を保ち続けており、世界の大都市を対象とした調査では、住みやすさが毎回トップクラスです。

その魅力が、バンクーバーを国内だけでなく世界中から常に人々が当地に移り住んでくる、「移民の街」にしています。以前は香港からの移民が大変多く、「Hongcouver」と呼ばれたほどでした。近年は中国から裕福な人々が移り住み、その存在感とパワーに人々はあらゆる意味で圧倒されています。いずれにしても、中国系の影響が強い街といえます。

しかし、アジアからを中心とした移民のおか

バンクーバー稲門会について

About

会長メッセージ

1980年代に駐在員の先輩諸氏がさまざまな集まりを開いたのが当会の始まりと聞いており、その後91年、正式に稲門会としての組織的な運営をスタートさせました。バンクーバー五輪の2010年には20周年を迎え、五輪にあやかり盛大に祝賀会を催しました。

現在は駐在員の方がどんどん減る傾向にあり、残念ながら会員数は40数名と、かなり少なくなっていました。しかし、当地にはワーキングホリデーや語学留学で若い方も大勢やってきます。彼らをいろいろなイベントに勧誘し、大いに盛り上がっています。

年間では総会を兼ねた新年会に始まり、四季折々にイベントを開催しており、夏のハイキングやバーベキュー、ゴルフ、秋のワインテイasting、そして冬はカラオケなどを楽しんでいます。特に、夏のバーベキュー大会は盛大で、夏の間はこちらにお見えになっている大槻義彦名誉教授も、毎年参加して下さいます。そしてこのようなメッセージをいただきまし



バーベキュー

た。「今年も楽しい稲門会のバーベキューに参加させていただき、ありがとうございました。緑木の濃い美しい森の中のパーティーは最高です。年々参加者が多くなりますね。早稲田卒以外の方々の参加者が急に多くなりました。稲門会の人気ぶりがうれしいです」

また、毎月ではありませんが、第4木曜日に「ヨンモク会」と称して気楽な集いを開いたり、も

ちろん「バンクーバー三田会」とも、いろいろ交流をはかり、友好を深めています。

集り散じて人は変れど……、早大仲間の心のふるさととしての稲門会。仲間と語り合いながら酒を飲む、仲間と肩を組んで校歌を歌う、そして仲間と新たな出会いを待つ。異国での稲門会の素晴らしさ、ありがたさを感じ続けています。

会長 矢野修三(1968年法学)

20周年記念式典

当会が早稲田学報に登場するのは、2006年に続き今回が2度目。この間、めでたく設立20周年を迎えた2010年に、細々と貯まったなげなしの余剰金をはたいて(?)、一大パーティーを開催しました。

これまでの歩みを総括するとともに、会の今後も賭けた(?)パーティーとあって、幹事グループは半年前から企画会議をスタート。「前代未聞の東京支部との二元中継はどうよ?」という無謀なアイデアが採用され、会場のホテルスタッフも巻き込んで、宴会場にSkypeと大スクリーンによる中継設備をしつらえました。

当日は初代会長の鹿住一夫氏(1952年文学)が遠路マイ

アミから駆けつけ、設立当時のエピソードをご紹介くださったことをはじめ、広く開かれた当会らしく、稲門以外の当地ゲスト多数や留学中の現役学生の参加も得て、35人が出席する大盛会となりました。

一方、東京側では昼間から渋谷のカラオケボックスに20人が集結し、本家顔負けの盛り上がりぶり。ともに大賑わいのなか、Skypeのあちらとこちらで懐かしい顔同士が「久しぶりー」「お元気そうで……」と言葉を交わしました。

クライマックスは、この20年間をたどるスライドショー。BGMに校歌が流れるなか、大スクリーンには懐かしの迷場面の数々が映し出され、笑いと「皆、若かったねえ」のため息まじりの、ちょっと(だけ)しみじみとした時間が流れました。ともあれ全員が「バンクーバー稲門会って、やっぱりいい」と実感することができた20周年パーティー。これからも末永く、楽しく和気あいあいとした会であらうとの意を新たにしたのでした。

馬場まり子(1987年政経)



20周年祝賀会



20周年祝賀会

バンクーバー稲門会の活動

Activity

稲門会の新年会

クリスマスとは対照的に、こちらの新年は案外そっとやってきます。大晦日に街が少し賑わい、除夜の鐘の代わりに地味な花火が打ち上げられます。それでも、我が稲門会で最大の行事はやはり、総会を兼ねた新年会です。この20年、さまざまな場所で賑々しく行われてきました。メンバーのご厚意に甘えてのホテルや高級レストランであったり、時には日系センターでの手作り新年会だったりもしました。

早々と総会を済ませ、樽酒やワインでの乾杯に始まり食事に舌鼓を打ちながら、クイズやゲームに興じます。ドアプライズのささやかなお土産でも大喜び。童心に返ってのひとときです。今年はバンクーバーの眺望を楽しみながら、カナダ人の方による琴の演奏という、ユニークな企画で優雅に過ごしました。

しかし何よりの魅力は、政治からスポーツ、経験談まで話が尽きないことです。そして、新しいメンバーや日ごろご無沙汰している先輩方が参加するなか「早稲田」で一つになり、最後に肩を組んで校歌を歌う同窓会は、世界広しといえども、そうないのではないのでしょうか。「集り散じて、人は変れど〜」の精神、バンクーバーでも脈々と生きています。

山口恭子(1973年教育)

バンクーバー稲門会 東京支部

日本に帰国後の会員の受け皿として「バンクーバー稲門会東京支部」があります。帰国組の仲間が参画するため、その会員数は今や「本家」を凌駕する勢いです。

主な活動は、ほぼ定期的に開催している新年会や忘年会など。そのほか、バンクーバーの仲間が一時帰国した際にも、随時集まっています。また、ゴルフコンペも開催予定です。

語学留学やワーキングホリデーからの帰国組と、バンクーバー襲がりで気の置けないOB・OGたちとが忌憚なく語り合い、さながら就職懇談会の場と化すことも、しばしば。バンクーバー滞在の縁を帰国後も交流の場として活用し、若くして内外の稲門会から恩恵を受ける後輩も少なくありません。

バンクーバーを訪問予定の方もご参加くだされば、現地の新旧いろいろな情報を伝授いたします。是非、ご連絡ください。

大槻一峰(90年商研修)